大学のさらなる社会貢献に向けたアウトリーチのあり方
～アウトリーチ活動の全体像把握方法の検討～

○ 高橋宏和（北見工業大学 工学部 情報システム工学科 マネジメント工学コース）
内島典子（北見工業大学 地域共同研究センター）
鞘師　守（北見工業大学 地域共同研究センター）

１．はじめに

社会において大学の求められる使命は教育・研究・社会貢献であり、活動成果について社会への還元、そして発信が求められている。そのためには、受け手の必要とする情報やニーズを汲み取り、それらに対して適切な情報を的確に伝えるアウトリーチ活動を通して発信する必要がある。アウトリーチは、産学官連携を推進する上で基盤となる重要な活動である。

本研究は、大学のアウトリーチ活動のあり方を検討していくためのツール整備を目的とし、大学でどのような情報発信が行われているか体系的に整理し、活動の全体像を把握・解析する方法を検討する。

2. 大学の活動と情報発信の全体像を把握・解析する方法

アウトリーチ活動の全体像把握において必要な情報は、「誰が」、「誰に対して」、「何をどのように伝えているか」である。これらの情報を知るためには、大学の活動を網羅し、どのように情報発信を行っているのかを把握する必要がある。しかし、これらの情報を列挙するだけでは全体像の把握は困難である。そこで、先述の情報を網羅し、より視覚的に捉えることを可能とする方法を検討した。（表）

表. アウトリーチ活動の全体像把握方法

項目		検討内容・他
情報の入手	刊行物調査	大学が行っている活動を網羅するため、広報誌をはじめ、大学の各組織から発行されている入手可能な全ての刊行物から情報を収集する。
	ヒアリング調査	刊行物になっていない大学の活動をカバーするため、大学の教職員に対するヒアリングから情報を収集する。
情報の可視化	マトリクス化	情報を、活動そのものと活動を担うステークホルダの両面から容易に見ることができるようにするため、マトリクスによる２次元表記を採用し情報を整理する。
	マトリクスの縦軸	大学の活動に関わりうる全ステークホルダを網羅するため、活動に携わる人・機関・組織を列挙し、縦軸の要素とする。
	マトリクスの横軸	大学の機能を網羅するため、大学の使命である教育・研究・社会貢献の全領域の機能を細分化し、横軸の要素とする。
	マトリクスの各セル	各セルには、縦軸の「大学の機能」と横軸の「ステークホルダ」の交点に対応する情報を入力する。 大学の活動全体を俯瞰するための全機能と全ステークホルダを軸とするマトリクスの他に、マトリクス中の各セル内の情報を細部にわたり検討するための各セル毎のデータベースを持ち、マトリクスとリンクで結ぶ。
情報の見方	各機能毎の 整理・見方	活動、情報発信の主体から得た情報を、相当する大学の各機能へ整理・分類し、マトリクスに入力する。 大学の持つ各機能毎の活動、情報発信、それらに関与する組織等を見ることができる。
	情報発信状況の 整理・見方	大学の全活動を可視化したマトリクスから、各機能について行っている各ステークホルダの情報発信活動を抽出し、別に用意する情報発信活動を可視化するためのマトリクスへ情報を入力する。 上記両マトリクスを重ねることにより、大学の各機能毎に、大学が行っている活動とそれに対応する情報発信を対比しながら見ることができる。

3. まとめ

上記の手法を用いることにより、以下が可能となる。

１） 大学における活動・情報発信の機能・活動毎の把握、およびそれらの全体像の俯瞰
２） 大学の強み・弱みの把握、およびそれらと大学が掲げる方針との関係の解析
３） 大学が有する機能・取り組む活動に対する情報発信水準の解析

これらから、アウトリーチの質・量の向上に向けた課題の抽出、今後の大学アウトリーチの指針を得るための検討が可能になると考えている。

本手法のさらなる改善と有用性の実証を目的とし、今後、実際に収集した情報をマトリクスへ反映し本学における活動とアウトリーチ活動の実態の可視化、課題抽出を試みる。